

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-134	13-305	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
<p>The effectiveness of the 'what do you drink' web-based brief alcohol intervention in reducing heavy drinking among students: a two-arm parallel group randomized controlled trial.</p> <p>学生の大量飲酒に対する『あなたは何を飲む (WDYD)』ウェブ・ベースの短期介入の効果；2-アーム並列グループ無作為対照臨床試験</p>		
執筆者		
Voogt CV ¹ , Poelen EA, Kleinjan M, Lemmers LA, Engels RC.		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2013 May-Jun;48(3):312-21.		
キーワード		
短期介入、ウェブ・ベース、インターネット		
要 旨		
<p>目的：</p> <p>『What Do You Drink』(WDYD) ウェブ・ベースの短期アルコール介入の効果を1-と6ヵ月の介入後に大量飲酒学生への効果を評価する。さらに、特定のサブグループがWDYD介入から他のグループより利益を得るかどうかを調査する。</p> <p>方法</p> <p>2010-2011年にオランダで、2-アーム並列無作為対照臨床試験がオンラインで行われた。包含基準は以下の通りであった：(1) 18歳と24歳の間、(2) 過去6ヵ月に暴飲を報告している、(3) 飲酒量を変えるよう動機づけされている、(4) インターネットにアクセスしている、(5) インフォームドコンセントをしている。参加者(n=913)は、実験群(WDYD介入)か対照群(非介入)にランダム化された。測定項目は、大量飲酒、ビンジ飲み(一気に大量に飲む)の頻度、週間飲酒量であった。</p> <p>結果</p> <p>治療への意図の原理ITTに従う分析では、フォローアップ評価でのアルコールに関する測定項目の改善において、有意な主要な介入効果は明らかではなかった。二次的な分析では、性別、新人、友愛会または女子学生クラブのメンバーシップがWDYD介入の効果を両方の追跡調査で緩和しなかった。変化に対する準備状態の人、飲酒関連問題と2月に行われるカーニバルへの参加は、介入効果を緩和した。熟考者、アルコール乱用または依存の重篤な症状をもつ人、カーニバルに参加した人では、1ヵ月の追跡調査で週間アルコール消費量に関してWDYD介入により他のグループに比べてより便益を与えられた。</p> <p>結論</p> <p>大量飲酒学生へのWDYD介入は、1-と6ヵ月の介入後にアルコールの観察項目を改善することに効果的でなかった。しかしながら、WDYD介入が短期的には大量飲酒学生のサブグループでは飲酒レベルを低下することに効果的であるという予備的な証拠がえられた。</p>		